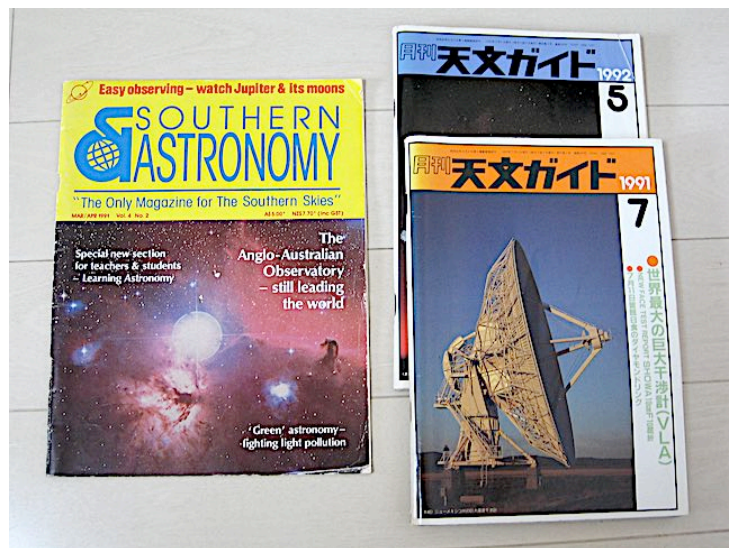


30年の天文遍歴（機材放浪記？） & etc.

仙台駐在員 小野寺

「星なかま☆ひめじ」30周年、おめでとうございます。30年になるのですね。設立の年に生まれた人も30歳になる・・・そう考えると、30年と言うのはかなり長いですね。私は既に前期高齢者&年金生活者だし、ある程度観望スタイルも固定されているので、今後の抱負ではなく、この30年間の天文遍歴を中心に綴ってみました。

30周年という事は、「星なかま☆ひめじ」が誕生したのは1992年でしょうか。私は1990年の5月から1993年の5月までメルボルンに住んでおりましたので、ちょうどその頃ですね。当時はまだ写真派でしたので、メルボルンでは所有していたNikon 8cmED F6 屈折（写真用の鏡筒として販売されていたと記憶）で、イータカリーナ星雲やオメガ星団、大小マゼラン雲等を撮影しておりました。当時、現地は観望派が主流で、現地で加入した同好会（Astronomical Society of Victoria）の観望会では、クールター社製のドブソニアンや、28cm（多分・・・）のシュミカセが主役でした。眼視観望の素晴らしさを知ったのもこの時期です。Nikonの鏡筒で撮影した写真は現地の天文雑誌や天文ガイド誌に送り、掲載して貰った事があります。（下の写真がそれらの雑誌。記念に保存してあります）



メルボルンで撮影した写真が掲載された天文ガイド（1991.7, 1992.5）と
現地天文雑誌（Southern Astronomy, Mar/Apr1991）

余談ですが、1990年の5月に現地の職場に着任した際、生まれて初めてメールアドレスとして `noriaki@mullian.ee.mu.oz.au` というのを貰いました。当時インターネットは民間開放前でしたし、メール専用プログラムなんて有りませんでしたので、UNIX（Sunのワークステーション）に接続された自席のMacintosh SEからログインし、UNIXのエディタでメールを作成してから、UNIXのコマンドでメールの送受信をしていました。

1993年の5月末に3年間のオーストラリア生活を終えて出国し、ニュージーランドやフィジーでぶらぶらしてから（笑）1993年6月中頃に帰国しました。翌7月末に、帰

国後住んでいた実家の仙台から就職先がある神戸に引っ越しました。神戸では、メルボルンでの体験から眼視観望派に転向。宮内の 10 cm 双眼鏡や Ninja320、ちょい見用のティーガル 60 を購入したのも神戸時代です。当時はパソコン通信 (!) が主流で、天文の情報交換の場はニフティーの会議室でした。詳細は思い出せないのですが、そこで知り合ったのが桑田さんや大杉さん達です。観望会にも誘っていただき、三濃山 (だったですよ) 等にご一緒させて頂きました。桑田さんの 15 cm フジノン双眼鏡が圧巻だったのを鮮明に覚えています。峰山観測所の下の道路で Ninja を使って観望した事も有りましたね。正確な場所が思い出せないのですが、スキー場から更に奥に入った山中での観望会では「ステファンの五つ子」を Ninja で見る事が出来たのも懐かしい思い出です。

その後、3 度目の転職で 2001 年 3 月に横須賀に引っ越しました。横須賀に住んだら富士山に観望に行ける! と思っていたのですが、なんと 18 年ほど住んでいたのに、仕事が忙しくて一度も富士山には行けませんでした。Ninja320 で観望したのも、三浦半島の先端で 1,2 回だけ。最終的に、Ninja, 8 cm ED, ティーガル 60、宮内も全て手放しました。その代わり、観望用として手軽な Kenko の 12 cm F5 アクロマート屈折 (これも最後には知人に譲渡) を購入。これは運搬が楽だったので、三浦半島での観望とベランダ観望に使っていました。低倍率専用と割り切れば、ナグラ-13 mm での星雲・星団観望は楽しかったのですが、星像が甘く 100 倍以上での観望には不向きでした。そうすると、もう少し大きい口径で倍率も上げられる鏡筒が欲しくなるのが天文ファンの悲しい性。大きすぎると Ninja みたいに稼働率が下がるので、手頃な大きさの英国オリオン社製 VX6 (15 cm, F5 ニュートン) を個人輸入。これは今でもベランダ変光星観測や観望会で活躍中です。実は変光星観測を本格的に始めたのも横須賀なのです。というのも、遠征観望に出かける事が困難だったので、平日の帰宅後でも自宅で星を楽しむために変光星観測を開始 (実際は再開) したのです。以来「変光星観測の合間にメジャーな星雲や星団を双眼鏡や望遠鏡で楽しむ」というスタイルが、私の天文生活として定着しています。

2019 年に故郷の仙台に戻ってからも、余りある自由時間 (?) で天文と自己啓発の日々をおくっています。現在の私の天文生活は「双眼鏡と 15 cm 反射、TV-85、それに 8 cm の格安フィールドスコープ (SV406P) を使った自宅での変光星観測」になっております。意外にも SV406P が観望&観測に使えるので、楽しさも倍増しています。この SV406P でズーム接眼レンズの悪いイメージが払拭され、現在では、変光星観測のメインアイピースが Baader Hyperion 8-24 mm ズームになりました。今後も、ずっとこの方針を継続していく予定です。自分に合った、無理のない天文生活が長続きの秘訣ですから。

ざっと綴りましたが、これが私の 30 年の天文遍歴&これからの活動方針です。私が神戸で皆さんと活動出来たのはわずかな期間ですし、私を知らない新しい会員の方も多数加わったと思いますが、今でもネットで皆さんとの繋がりを継続出来るのは嬉しいですね。近い将来、そちらを訪問出来るかどうか分かりませんが、これからも「星なかま☆ひめじ」の遠距離メンバーとして、末長く (細く長く?) 活動に参加できればと思っています。